

愛ちゃん と 希望くん



やわたはま

社協だより

44

平成25年 7月 1日

《発行》社会福祉法人 八幡浜市社会福祉協議会 八幡浜市松柏乙 1101 番地

八幡浜市保健福祉総合センター2階 TEL 23-2940 FAX 23-0506

ホームページは [八幡浜市社協](#) まで

第26回福祉のつどいを開催しました たくさんの方のステキな「えがお」に出会いました



音楽で交流するほっこりんと八幡浜児童合唱団

平成25年6月9日(日) 10時から15時、新町ドームで福祉のつどいを開催しました。(八幡浜市ボランティア協議会・八幡浜市社会福祉協議会共催)当日は1日雨でしたが、約500名のボランティアの方が携わり、約500名の方が来場されました。

さて、東北地方を中心に甚大な被害をもたらした東日本大震災から2年が経過しましたが、復興への道のりは長く、険しく、継続的な支援が必要です。一日も早い復興を願うばかりです。その中で人との絆や縁が必要です。人と人とのつながることの原点でもある「えがお」。

平成元年3月19日に産声をあげた福祉のつどい。昨年度第25回は、「協働からこれまでに感謝、今をみつめ、これから共に歩む仲間づくり」をサブテーマに、福祉のつどいを通して世代や分野を超えて協働し、課題にとりくんでいくことを目指しました。これまでの福祉のつどいの中で引き継がれてきた協働、第25回のステージプログラムの中で生まれた協働、まさにサブテーマの想いが形になった「福祉のつどい」だったと振り返ることができます。

第26回となる福祉のつどいは、「進めよう『住民主体の福祉のまちづくり』強めよう 支え合い(共助)のネットワーク」をスローガンとしました。そして、「えがお」をサブテーマにかかげました。笑顔でつながり、恵顔によって与え合い、愛顔で接することで、今あるつながりをより強く、さらには広げていくことを目指しました。

今回のつどいもステキな「えがお」に出会いました。

鼓動！躍動！感動！

川之石高校書道ガールズ



一筆一筆におもいをこめて

にできてよかった」

担当教諭「会場に多くの人が集っ

ていて、生徒も私も緊張しました。

おもしろいチャレンジできてよかつ

たです。周りの方も私たちも笑顔に

なれました」福祉のつどいに新しい

風が吹きました。

川之石高校の文化祭でも書道パ

フォーマンスを予定しています。

ぜひ、遊びに行きましよう。

川之石高校書道部は、2年生7名、

3年生5名で元気に活動しています。

平成24年度の福祉のつどいに参加し

た部員が川之江高校書道部のパフォー

マンスをみて、「私たちもとりくんで

みたい」とのモチベーションにつな

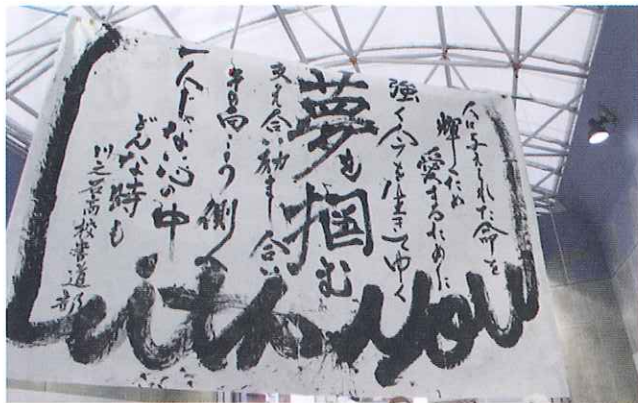
がりました。ゆずの名曲「with

you」にあわせて、書道ガールズ

が躍動しました。

学生「楽しかったです。またチャ

レンジしたい」「このメンバーで一緒



観客からなりやまない拍手

四国中央市と八幡浜市の続いていく絆 しこちゅく・ほこほこネットさんが来浜

四国中央市と八幡浜市は福祉のつ

どいを通じて絆が生まれています。

第24回は芝居処 姫茶屋さん、第

25回は川之江高校書道部がゲストと

して来浜していただきました。そし

て今回は、四国中央市子育て支援ネッ

トワーク「しこちゅく・ほこほこネッ

ト」のメンバーとほっこりん（四国

中央市子育て応援キャラクター）が

会場を盛り上げてくれました。

「しこちゅく・ほこほこネット」は

平成23年2月2日に結成されました。

「子育て環境四国一」を目指す四国

中央市と協働し、子

育てを支援するNP

O法人やボランティア

ア団体等のスキル向

上を図り、相互の交

流を促進する団体間

の連携を推進し、四

国中央市の子育て支

援活動を充実させ、

子育てをしやすい環

境をつくることを目

的とされています。

「ほっこりんのうた」を通じて、八

幡浜児童合唱団と温かな交流がみら

れました。メンバーの宝利佳代さん

「福祉のつどいに参加させていただ

き、とても楽しい時間を過ごすこと

ができました。『ほっこりんとカノン

の音楽あそび』では、歌や踊りに参

加していただいたみなさん、会場全

体で盛り上げていただき、ありがと

うございました。みなさんの笑顔が

印象的でした。また、この繋がりを

大切に…」



ほっこりんと宝利さん

福祉のつどいで

新しい協働を発見しました



もちつきに初参戦！神山おやし隊

福祉のつどいになくはならない、開会式と閉会式のおもちまき。

今回は、八幡浜市赤十字奉仕団、八幡浜市ともしび婦人会、八幡浜市民生児童委員協議会、八幡浜市母子寡婦福祉連合会、神山おやし隊の方々のコラボで、14斗のもち米をおいしいおもちに変身させてくれました。八幡浜地区施設事務組合消防本部のみなさんは、寸劇でAEDの使い

方、心臓マッサージの実演をしていただきました。子どもから高齢者まで理解できる貴重な講習となりました。

消防本部の皆さんは、テント設営なども積極的に協力していただきました。みなさん、ありがとうございます。



ぬりえや記念撮影などみんなが楽しめました

たくさんのお色で ノーマライゼーションが実現しました

今回の福祉のつどいのプログラムは、たえず音が響いていたのが大きな特徴です。雅組の迫力ある太鼓演奏、白浜地区 ゆりかこの里のコーラス、フォークダンス愛好会の軽快

で誰もが参加できるダンス、八幡浜児童合唱団の心に響く歌声、しこちゆく・ほこほこネットの楽しい音楽あそび、あゆみの会と川之石高校の手話と歌声のハーモニー。そして一緒にうたい、温かな拍手を送る観客の皆さん。音を通じて、みんなが参加し、みんなが主役になりました。

プログラムの終盤では、八幡浜市中心身障害者（児）団体連合会が「ふるさと」を合唱しました。障がいをもつ方も、家族の方も、ボランティアの方も、施設の方も、観客も、あらゆる人が合唱に参加しました。合唱がおわったとき、会場には確かに

いろんな「えがお」があり、一体感が生まれました。



「ふるさと」はみんなが大好きなうたです

生きる力を養う福祉教育を目指して 八代中学校でのボランティアコースのとりくみ

―学校と社会福祉協議会との福祉教育についての協働が始まりました―

八幡浜市立八代中学校では、中学3年生を対象に、総合的な学習の時間の1つにボランティアコースがあります。平成25年度のボランティアコースは、54名の学生が参加します。5月から12月の間、およそ1週間に2時限、合計約50時間の授業が設けられています。

八代中学校担当教諭と八幡浜市社協との間でボランティアコースの内容について協議を重ねました。そして、ボランティアコースの内容を学生、八代中学校、八幡浜市社協で作り上げていくことになりました。

八幡浜市社協や八幡浜市内の



木村さんからボランティアの語源も学びました

ボランティア団体・関係機関等で講師を担当していきます。今回のボランティアコースの目的は、「福祉やボランティアの学習と体験を積み、八幡浜市内のヒトや社会資源を学ぶことで、学生の皆さんが福祉を主体

的にとらえ、自分や他人の権利を尊重し、よりよく生きる力を養うこと」をねらいとしています。

―「愛の反対語は？」―

ボランティアコース1回目は、平成25年5月24日(金)13時5分から14時45分、八代中学校体育館で行いました。八幡浜市ボランティア協議会 会長 木村謙児さんに講師を務めていただきました。木村さんが八幡浜学園をきっかけに、長年のボランティア活動へのとりくみを報告しました。また、DVD鑑賞で、八幡浜市ボランティア協議会の活動を学生の皆さんは知ることができました。木村さんは心豊かな、ぬくもりある社会をつくるためには、ボランティア活動が大きな力を発揮し、社会を動かすことができることを、実際の事例を交えながら教えてくれました。木村さんはマザー・テレサの言葉を引用し、学生に優しく語りかけます。「愛の反対語は何でしょうか？」学

生の皆さんは一生けん命考えます。ある学生は「憎しみかなあ…」ある学生はうつむいて考えます。木村さんから「こたえは…、無関心です」といわれ、アンケートの結果からも学生の皆さんの心に印象深いものとなりました。

―学生のみなさんの感想―

「体に障がいがある方もボランティアをしていることを知りびっくりしました」

「ボランティアは意欲的に参加することが大切と感じました」

「人のつながりや思いやりの気持ちを大切にすることがボランティアということがわかりました」

―自分の中の福祉観を知り、人との価値観の違いに気づくことの大切さを学びました―

ボランティアコース2回目は、平成25年5月29日(水)13時30分から15時10分、八代中学校会議室で行いました。

講師は八幡浜市社協職員が務めました。今回は、学生の皆さんが6人×9グループに分かれていただきました。KJ法（問題解決のアイデアを出す手法）を用いて、「福祉」についての個人のおもいをグループ内で話し合いました。そしてグループとして「福祉」へのおもいを整理し、

グループごとに報告してもらいました。KJ法やグループでの話し合いの経験があまりなかった学生の皆さんでしたが、教諭の方からの声かけなどで、積極的にとりくんでくれました。そして、今後、より学習を深めたいこととして、コミュニケーションや施設について学びたいと自発的な意見がありました。

たボランティアについてグループで考えることができてよかったです」「みんなで意見を出し合って、まとめていく課程が印象的でした」「他のグループとちがう意見がたくさんありました。たくさんの方を考えたかったです」

「深く考えることのなかった」

— 学生のみなさんの感想 —



グループで個人の意見を出しまとめます

平成25年5月16日(木)10時から11時30分、江戸岡小学校体育館で親子シャッフルゴルフを行いました。小学2年生16名、保護者約14名、教諭1名が参加し、社協職員2名がロールの説明を行いました。

江戸岡小学校 シャッフルゴルフを通じて交流を深めました

シャッフルゴルフはふれあい・いきいきサロンや地区社協・公民館活動、デイサービス等多くの場面で活用されています。子どもから高齢者、障がいをお持ちの方、誰もが参加することが出来ます。

今回は3通りの遊び方にチャレンジしてもらいました。親子混合で、4チームに分かれ総当たり戦を行いました。

小学生も保護者の方もボールの行方に一喜一憂しました。「お父さん、絶対このボールにあててよ」「これは5点だよ」「5点じゃないよ」など皆さんの声が弾みました。

— 小学生の感想 —
「ドキドキしたけどがんばりました」



みんなで見守る ボールの行方

「また今度、公民館に行ってやってみたいです」
「お母さんが一生けん命やっていたので、私も勇気をだしてがんばりました」
シャッフルゴルフは八幡浜市協(23-2940)で無料の貸し出しを行っております。

舌田地区にふれあい・いきいきサロンが誕生 「みんなが先生になれるサロンです」

平成25年5月15日(水) 10時から 12時、舌田ふれあいの家で、ふれあい・いきいきサロン「さざなみ」の話し合いに、社協職員が伺いました。

現在、八幡浜市内では68ヶ所の高齢者のサロンが活躍しています。「楽しく、気軽に、ムリなく」をモットーに、公民館や自宅等で茶話会をしたり、料理を作ったり、ボランテアをしたりするなど、高齢者の生きがいづくりとつながりづくりを、地域住民自身の手でと取り組んでいます。



サロン誕生まで多くの人に関わりました

全て女性。平均年齢は72歳で、市内のサロンでは若手のサロンとなりま
す。ずっとサロン活動にとりくみた
かったメンバー。しかし、サロンの
立ち上げや運営など分からないこと
だらけ。どこに相談するかなど悩み
はつきませんでした。メンバーと千
丈地区「郷ニューサロン」の世話人
さんが顔なじみの関係で、サロンの
立ち上げについて相談しました。そ
こで地区社協や八幡浜市社協へ問い
合わせするようヒントをもらい、地
区社協会長や民生委員、八幡浜市社
協事務局へ相談しました。舌田地区
社協 矢野会長「舌田地区にはサロ
ンがなかったの、立ち上げに携わ
れたことは幸せなこと。活動を大事
に支えていきたい」

「さざなみ」の誕生まで

「さざなみ」は68番目の
生まれたてのサロンです。

「さざなみ」の世話人は
山口さん、サロンメンバ
ーは9名です。メンバーは

「サロン名の由来」

世話人 山口さん「八幡浜市内の
サロンは花に関する名が多いよう
です。海に由来する名は、松蔭地区『汐
かぜ』さんだけでした。舌田地区は

海と共に暮らし、歩んできたまち
だから、「さざなみ」にしました。
「これからのサロン活動」

サロンメンバー、舌田地区社協
矢野会長、民生児童委員 堀川さん
とサロンの運営やとりくみについて
話し合いを行いました。活動につい
ては、市民手作りのはつらつ介護予
防体操を取り入れます。メンバーは
それぞれ特技をもっています。料理
が得意な人、お菓子づくりが好きな
人、手芸・パッチワークがプロ級の
人。世話人 山口さん「サロンでは
特技をいかして、みんなが先生にな
ります」

矢野会長「舌田ふれあいの家は舌
田保育所の跡地にできています。舌
田ふれあいの家とさざなみの活動を
拠点として、舌田地区らしい福祉活
動を目指していきます」

ふれあい・いきいきサロンについ
ては、八幡浜市社協

(23-2940)まで。

平成25年度 7月より 社会福祉協議会会員加入にご協力を お願いします

社協会費

■一般会費 500円

(各世帯にご協力頂いています)

■特別会費 1000円

(各世帯、個人、団体、企業のみ
なさまにご協力頂いています)

社会福祉協議会とは

「こんな八幡浜市にしたい」「こんな八幡浜市に住みたい」「困っていることがある」「こんな福祉サービスが必要」八幡浜市社会福祉協議会では、このような声をもとに、「すこやかな心ふれあう思いやりあるまちづくり」に取り組むため、住民や関係機関の皆様にご参画いただき、地域福祉活動の推進に努めています。八幡浜市社会福祉協議会は昭和26年に発足し、昭和37年には社会福祉法人(民間団

体)となりました。民生児童委員やボランティア団体、福祉施設、地区の社会福祉協議会、行政などの代表者で理事会・評議会が構成されています。

会費を納めていただくことで地域福祉を支えます

住民の皆様一人ひとりが福祉活動

に参加することが本来の福祉の姿であるという考えのもと、昭和47年より、社協会費を皆様に納めていただいております。身近な地域の福祉活動を推進するためには、様々な方法があります。社協会員にご加入いただくことで、間接的に社協活動に参画していただくことになり、ボランティア活動等を支えることとなります。社協会費は、赤い羽根共同募金とならび、八幡浜市の地域福祉を

推進していく上で、大変貴重な財源となります。なお、皆様からいただいた会費の内、95%は14の地区社協へ還元しております。

7月より、市民や企業の皆様に、社協会員及び特別会員加入のご依頼をさせていただきます。経済は以前厳しい状況が続いておりますが、皆様のできる限りの善意をよろしくお願ひします。



※会費を納入していただいた方には、「社協会員の章」をお渡ししております。

地区社協名	会費納入額 (円)	地区社協名	会費納入額 (円)
江戸岡	502,940	真穴	355,600
松蔭	651,166	双岩	282,000
白浜	764,710	日土	411,000
千丈	580,700	喜須来	566,500
神山	872,700	川之石	744,500
舌田	133,500	宮内	695,500
川上	237,700	磯津	129,500
八幡浜市の社協会費の合計 (円)		6,928,016円	

【平成24年度社協会費の納入額】

成年後見制度出前講座 「私が認知症になった時の暮らしって?」

平成25年5月23日(木)、13時30分
から14時30分、ふれあい・いきいき
サロン「夢の会」(場所…千丈地区公
民館)において、成年後見制度出前
講座を行いました。八幡浜市権利擁
護センター(八幡浜市社会福祉協議
会)の職員が伺いました。

夢の会は平成21年度からサロン活
動を開始し、現在、女性14名、平均
年齢は74歳です。講座には、千丈地
区社協会長 上脇和代さん、サロン
世話人 中町益子さん、サロンメン
バーが出席しました。メンバーで一
番年配の88歳の方も出席し、真剣に
楽しく学びました。

メンバーはお一人暮らしの方が多
いです。約1カ月に1回のサロンを
楽しみにしています。身体の不安や
認知症等による判断能力が低下した
時の不安を口にされました。「近所に

迷惑かけたらいけないなあ…」「認知症
になっても、サロンに参加したい」
「認知症になっても、できるかぎり、
自分の家で生活したい」

認知症になっても、「私はこんな暮
らしたい」と民生児童委員さん
やご近所、ご家族と話しておくこと、
そなえをしておくことの大切さを確
認しました。



いつもは元気にシャッフルゴルフをしています

平成25年度 精神保健ボランティア養成講座 募集

□目的 精神障がいに対する理解を深め、社会参加を促進し、地域住民の精神保健福祉の向上を図るためのボランティアを育成します。

□会場 八幡浜市文化会館 ゆめみかん(八幡浜市保内町宮内1-118)

□定員等 定員は20名、受講料は無料です。

□平成24年度講座 受講生の感想

- ・当事者の理解者としてボランティアができるよう活動に参加したいです。
- ・正しい知識を得ることの大切さが確認できました。

□日程等 講座全6回、体験学習2回を企画しています。

日時：平成25年8月8日(木)～11月14日(木)

午後1時30分～午後3時30分

内容：映写会、当事者との交流会、体験発表、講義「病気と障害」、
講義「地域で生活していく為に」、
ボランティア団体はまかぜとの交流等。

※詳細は、八幡浜市社協ホームページと第1回目(8月8日)の講座で説明します。

□主催・お申込み 社会福祉法人 八幡浜市社会福祉協議会
保内支所(36-0262)までご連絡をお願いします。